

**バス棚倉の仲間と共に勝ち取った「全部救済」の勝利命令を全組合員で確認し、
反転攻勢！正常で健全な JR 東日本グループを取り戻す闘いに決起する水戸地本見解**

2021年9月16日、東京都労働委員会は「ジェイアールバス関東不当労働行為事件」に対して「全部救済」命令を交付した。この命令は、私たちが不当労働行為救済申立を提出した内容の全てが認められた画期的な勝利命令である。全組合員でこの勝利を分かち合い、第三者機関を活用した闘いの意義と成果を確認し合いたい。

この事件は2018年11月11日、ジェイアールバス関東白河支店長がJRバス棚倉の組合員を白河市の喫茶店に呼び出し、「俺が納得する書類（脱退届）を出せ！そしたら不祥事を握ってやる！」「今のドライブレコーダーの映像はサーバーに残っている。脱退届を出すなら映像を消す！」「社長に書記長と副会長までやった社員が反省して非組になったから、罪を軽くしてくれと言えるんだ！」「それをするには紙（脱退届）が必要なんだ！」と言い放ち、さらに翌12日には「転勤させられてもかばえない」「最終的に助けてくれるのは会社である」「今週末まで待ってやる！」「答えを言え！俺の期待しているやつ」などと脱退強要を行った事件である。そして、この事件の核心は、組合を脱退しなければならない理由を「会社がそういう方針だからだ」「お前が辞めれば下手すりゃ何人かバタバタいく」と白河支店長が述べたことにあり、JR東日本グループ総ぐるみの組織破壊攻撃であったことは言うまでもない。

東京都労働委員会は、この事件を「本件行為は、組合の運営に干渉し組合を弱体化させる行為」とであると認定した。さらに、「会社がそういう方針だからなどと述べていることからすれば、白河支店長の本件行為は、会社の意を体してなされたものであった」として、「会社による組合の運営に対する支配介入に当たる」と断定した。この判断は、18春闘以降行われた脱退強要行為が会社の意思の基に行われたことを立証したものであり、まさにJR東日本グループ総ぐるみで行われた脱退強要であったことが認められた瞬間である。この間、会社は職場で発生した脱退強要に対して当該の管理者等の判断で行われたとしてその関与を強く否定してきたが、それを覆す今回の判断は極めて重要である。この判断を何としても「組合差別・脱退パワハラ個人訴訟」の勝利につなげ、JR東日本会社の一部経営幹部が主導して行った労働組合破壊の犯罪行為を断罪しなければならない。

また、団体交渉でジェイアールバス関東会社が不当労働行為を認め、関係者を処分したことをもって「解決済」とした当時の労働組合の判断をも否定し、救済命令が発せられたことも主体的に捉え返すべきである。申立人となったバス棚倉の仲間は、自らの不利益を覚悟の上で不当労働行為救済申立を行った。それは、「以前のようなジェイアールバス関東会社に戻りたい」という思いを胸に、不当労働行為の「本質」と闘うことに決起したからである。そして、私たちはこの仲間の決意を「抑えつける」という労働組合としてあるまじき行為に屈することなく、「仲間のために」「組織のために」立ち上がった仲間と共に闘い抜いてきたのである。改めて、輸送サービス労組結成の「原点」である闘いの意義を捉え返し、結成以降の不当労働行為の根絶に向けて職場から闘いを創り出していかなければならない。

18春闘以降、JR東日本会社は変革2027に基づいた施策を次々と進めている。その中でも、特にジョブローテーションなる強制転勤・強制配置転換は輸送サービス労組を敵視した人事施策であり、その会社姿勢は組合掲示板や会議室の使用規制、団体交渉の形骸化などにも表れている。言うまでもなく、この根底には不当労働行為を働いてでも労働組合を破壊するという経営の意志が貫かれていると言える。しかし、私たち輸送サービス労組水戸地本はこのような現実には屈せず、諦めない。なぜなら、今回の勝利命令で明らかかなように、私たちの闘いの正しさが第三者的にも証明され、さらには“蟻の一穴”としての闘いの「展望」が切り拓かれたからである。まさに闘いは「これから」であることを全組合員に訴えたい！

全組合員と全ての労働者に訴える！

この間、多くの労働者が脱退強要や利益誘導によって労働組合を脱退し、泣き寝入りを余儀なくされた。さらに会社は、その労働組合未加入者の意思を利用して労働者の働きがいや労働の誇りを奪う施策を推進し、さらなる労働者の分断を図っている。行き着く先は、労働者の犠牲の上に成り立つ経営である。決して騙されず、真実を見極めなければならない。だからこそ、私たちは全ての労働者に「おかしいことはおかしい」と物言える輸送サービス労組への結集を呼び掛けるのである。

私たちに求められていることは、不当労働行為の不法行為を平然と行う企業経営を質し、正常で健全なJR東日本グループを取り戻すことであり、鉄道の安全を守り、労働者を大切にするJR東日本会社を創造することにある。その実現のためにも、バス棚倉の仲間と共に闘ってきた不当労働行為救済申立勝利命令の「意義」を全ての労働者と確認し合いたい。そして、輸送サービス労組結成の「原点」である“すべての仲間のため”の輸送サービス労組運動を堂々と推し進めると共に、これからの展望を切り拓く「反転攻勢」の闘いに決起していくことを全組合員に強く訴え、見解とする。

2021年9月22日

JR東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部第4回執行委員会